主な医薬品とその作用

問１　かぜ薬及びその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　解熱鎮痛成分の鎮痛作用を補助する目的で、トラネキサム酸が配合されている場合がある。
b　ジヒドロコデインリン酸塩は、依存性がある成分であるため、12才未満の小児では、５～６回使用しても咳や喉の痛みが鎮まらない場合は、漫然と継続せず、いったん使用を中止し、医師の診療を受けるなどの対応が必要である。
c　「かぜ」は単一の疾患ではなく、上気道の急性炎症の総称であり、約８割は細菌が鼻や喉などに感染して起こる。
d　かぜ薬の重篤な副作用は、配合されている解熱鎮痛成分（生薬成分を除く。）によるものが多い。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	誤	正	誤
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	誤	正

問２　かぜ薬の配合成分に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

1　去痰作用を目的として、シャゼンソウ、セネガ、キキョウ、セキサン、オウヒ等の生薬成分が配合されている場合がある。
2　どのような人が対象であっても、１日最大服用量がグリチルリチン酸として40mg以上となる製品は長期連用を避ける。
3　アドレナリン様作用によって鼻汁分泌やくしゃみを抑えることを目的としてベラドンナ総アルカロイドが配合されている場合がある。
4　アスピリンは、他の解熱鎮痛成分に比較して胃腸障害を起こしやすく、アスピリンアルミニウム等として胃粘膜への悪影響の軽減を図っている製品もある。

問３　プロスタグランジンに関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

a　プロスタグランジンは脳の下部にある体温を調節する部位（温熱中枢）に作用して、体温を通常よりも下げるように調節する働きがある。
b　末梢におけるプロスタグランジンの産生抑制により、腎血流量は増加する。
c　プロスタグランジンには胃酸分泌調節作用や胃腸粘膜保護作用がある。
d　月経痛（生理痛）は、月経そのものが起こる過程にプロスタグランジンが関わっている。

１（ a，b ）　２（ a，c ）　３（ a，d ）　４（ b，d ）　５（ c，d ）

問４　次の表は、ある解熱鎮痛薬に含まれている成分の一覧である。この解熱鎮痛薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

２錠中（成人１日量）	
イブプロフェン	160mg
アセトアミノフェン	160mg
無水カフェイン	50mg
酸化マグネシウム	70mg

a　イブプロフェンは、内服薬のほか、専ら小児の解熱に用いる製品として坐薬にも配合されている。
b　アセトアミノフェンは、主として中枢作用によって解熱・鎮痛をもたらすため、末梢における抗炎症作用は期待できない。
c　この製品は、酸化マグネシウムが含まれているため、解熱鎮痛に加え、胃腸薬のように胃腸症状に対する薬効を標榜することができる。
d　この製品は、出産予定日12週以内の妊婦については、服用しないこととされている。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	正	正	正	誤
3	誤	誤	誤	誤
4	正	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

問５　眠気を促す薬に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

a　生体内情報伝達物質であるヒスタミンは、覚醒の維持や調節を行う働きを担っており、脳内におけるヒスタミン刺激が低下すると、眠気を促す。
b　抗ヒスタミン成分を主薬とする催眠鎮静薬は、慢性的に不眠症状がある人に用いられ、一時的な睡眠障害（寝つきが悪い、眠りが浅い）の緩和には用いられない。
c　神経質、精神不安、不眠等の症状の改善を目的とした酸棗仁湯は、比較的長期間（１ヶ月位）服用されることが多い。
d　抑肝散は、体力中等度以上で、精神不安があって、動悸、不眠、便秘などを伴う高血圧の随伴症状（動悸、不安、不眠）、神経症、更年期神経症、小児夜なき、便秘に適すとされ、構成生薬としてダイオウを含む。

１（ a，b ）　２（ a，c ）　３（ b，c ）　４（ b，d ）　５（ c，d ）

問６　眠気を防ぐ薬に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

a　カフェインの眠気防止に関連しない作用として、腎臓におけるナトリウムイオン（同時に水分）の再吸収促進があり、尿量の減少をもたらす。
b　眠気を抑える成分ではないが、眠気による倦怠感を和らげる補助成分として、ニコチン酸アミド、アミノエチルスルホン酸（タウリン）等が配合されている場合がある。
c　眠気防止薬におけるカフェインの１回摂取量はカフェインとして200mg、１日摂取量はカフェインとして500mgが上限とされている。
d　カフェインには、胃液分泌抑制作用があり、その結果、副作用として胃腸障害（食欲不振、悪心・嘔吐）が現れることがある。

１（ a，b ）　２（ a，d ）　３（ b，c ）　４（ b，d ）　５（ c，d ）

問７　鎮暈薬（乗物酔い防止薬）及びその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　３歳未満では乗物酔いを起こしやすいため、３歳未満の乳幼児向けの乗物酔い防止薬もある。
b　スコポラミン臭化水素酸塩水和物は、乗物酔い防止に古くから用いられている抗コリン成分で、肝臓で代謝されにくく、抗ヒスタミン成分等と比べて作用の持続時間が長い。
c　脳に軽い興奮を起こさせて平衡感覚の混乱によるめまいを軽減させることを目的として、ジフェニドール塩酸塩などのキサンチン系と呼ばれる成分が配合されている場合がある。
d　抗ヒスタミン成分は、延髄にある嘔吐中枢への刺激や内耳の前庭における自律神経反射を抑える作用を示す。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	正	正	誤	誤
3	正	正	正	誤
4	誤	誤	誤	正
5	誤	誤	正	誤

問８　鎮咳去痰薬の配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

a　コデインリン酸塩水和物は、妊娠中に摂取された場合、吸収された成分の一部が血液-胎盤関門を通過して胎児へ移行することが知られている。
b　メチルエフェドリン塩酸塩は、交感神経系を刺激して気管支を拡張させる作用を示し、咳や喘息の症状を鎮めることを目的として用いられる。
c　クレマスチンフマル酸塩は、気道粘膜からの粘液の分泌を促進し、痰を出しやすくする。
d　ゴミシは、バラ科のチョウセンゴミシの果実を基原とする生薬で、体内で分解されて生じた代謝物の一部が延髄の呼吸中枢、咳嗽中枢を鎮静させる作用を示すとされる。

１（ａ，ｂ）　２（ａ，ｄ）　３（ｂ，ｃ）　４（ｂ，ｄ）　５（ｃ，ｄ）

問９　口腔咽喉薬及びうがい薬（含嗽薬）に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　セチルピリジニウム塩化物は、抗炎症成分として、声がれ、喉の荒れ、喉の不快感、喉の痛み又は喉の腫れの症状を鎮めることを目的として用いられる。
b　ヨウ素系殺菌消毒成分が口腔内に使用される場合、結果的にヨウ素の摂取につながり、甲状腺におけるホルモン産生に影響を及ぼす可能性がある。
c　クロルヘキシジングルコン酸塩が配合された含嗽薬については、低刺激性の殺菌消毒成分であるため、口腔内に傷のある人でも使用することができる。
d　ラタニアは、クラメリア科のクラメリア・トリアンドラ及びその同属植物の根を基原とする生薬で、咽頭粘膜をひきしめる（収斂）作用により炎症の寛解を促す効果を期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	誤
3	誤	誤	正	正
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	誤	正

問10　胃の薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　制酸薬は、胃液の分泌亢進による胃酸過多や、それに伴う胸やけ、腹部の不快感、吐きけ等の症状を緩和することを目的とする医薬品である。
b　味覚や嗅覚を刺激して反射的な唾液や胃液の分泌を促すことにより、弱った胃の働きを高めることを目的とした生薬成分が配合された健胃薬は、散剤をオブラートで包む等、味や香りを遮蔽する方法で服用されると効果が期待できず、そのような服用の仕方は適当でない。
c　吐きけや嘔吐は、中脳にある嘔吐中枢の働きによって起こる。
d　一般用医薬品には、制酸と健胃のように相反する作用を期待するものが配合されている場合もある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	正	誤	正
3	誤	正	正	正
4	正	誤	誤	正
5	誤	誤	誤	誤

問11　胃の不調を改善する目的で用いられる漢方処方製剤に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　平胃散は、体力中等度以上で、胃がもたれて消化が悪く、ときに吐きけ、食後に腹が鳴って下痢の傾向のあるものの食べすぎによる胃のもたれ、急・慢性胃炎、消化不良、食欲不振に適すとされる。
b　人参湯（理中丸）は、体力虚弱で、疲れやすくて手足などが冷えやすいものの胃腸虚弱、下痢、嘔吐、胃痛、腹痛、急・慢性胃炎に適すとされる。
c　安中散は、体力中等度以上で、腹部は力がなくて、胃痛又は腹痛があって、ときに胸やけや、げっぷ、胃もたれ、食欲不振、吐きけ、嘔吐などを伴うものの神経性胃炎、慢性胃炎、胃腸虚弱に適すとされる。
d　六君子湯は、体力中等度以下で、胃腸が弱く、食欲がなく、みぞおちがつかえ、疲れやすく、貧血性で手足が冷えやすいものの胃炎、胃腸虚弱、胃下垂、消化不良、食欲不振、胃痛、嘔吐に適すとされる。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	正	正	正	誤
4	正	誤	正	正
5	正	正	誤	正

問 12　止瀉薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　次没食子酸ビスマス等のビスマスを含む成分については、アルコールと一緒に摂取されると、循環血液中への移行が高まって精神神経症状を生じるおそれがある。
b　急性の激しい下痢又は腹痛・腹部膨満・吐きけ等の症状を伴う人では、細菌性の下痢や食中毒が疑われるため、収斂成分を主体とする止瀉薬の安易な使用は避けることが望ましい。
c　ロペラミド塩酸塩が配合された止瀉薬は、腸管の運動を低下させる作用を示し、胃腸鎮痛鎮痙薬との併用は避ける必要がある。
d　オウバクのエキス製剤は、苦味による健胃作用よりも、ベルベリンによる止瀉作用を期待して、消化不良による下痢、食あたり等の症状に用いられる。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	正	正	誤
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	誤	誤
5	正	正	正	正

問13　瀉下薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　マグネシウムを含む成分は、腎臓病の診断を受けた人では、高マグネシウム血症を生じるおそれがある。
b　センナ及びセンノシドが配合された瀉下薬については、穏やかに腸に作用するため、妊婦又は妊娠していると思われる女性にも安心して使用することができる。
c　カルメロースナトリウム、カルメロースカルシウムは、腸管内で水分を吸収して腸内容物に浸透し、糞便のかさを増やすとともに糞便を柔らかくすることで瀉下作用を示す。
d　ピコスルファートナトリウムは、胃や小腸で分解され、大腸に刺激作用を示すようになる。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	正	誤	誤	誤
3	正	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	誤	誤	誤	正

問14　腸の不調を改善する目的で用いられる漢方処方製剤に関する記述のうち、正しいものはどれか。

1　大黄牡丹皮湯は、体の虚弱な人、胃腸が弱く下痢しやすい人では、激しい腹痛を伴う下痢等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。
2　桂枝加芍薬湯は、体力中等度以下で、ときに便が硬く塊状なものの便秘、便秘に伴う頭重、のぼせ、湿疹・皮膚炎、ふきでもの（にきび）等の症状の緩和に適すとされる。
3　麻子仁丸は、胃腸が弱く下痢しやすい人でも下痢等の副作用が現れにくいが、本剤を使用している間は、他の瀉下薬の使用を避ける必要がある。
4　大黄甘草湯は、体力中等度以下で、腹部膨満感のあるもののしぶり腹、腹痛、下痢、便秘に適すとされる。

問 15　駆虫薬に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

a　複数の駆虫薬を併用した場合、組合せによっては駆虫効果が増強する。
b　食事を摂って消化管内に内容物があるときに使用すると、消化管内容物の消化・吸収に伴って駆虫成分の吸収が高まることから、空腹時に使用することとされているものが多い。
c　一般用医薬品の駆虫薬が対象とする寄生虫は、回虫と鞭虫である。
d　駆虫薬は腸管内に生息する虫体にのみ作用し、虫卵や腸管内以外に潜伏した幼虫（回虫の場合）には駆虫作用が及ばない。

1（ a，b ）　2（ a，d ）　3（ b，c ）　4（ b，d ）　5（ c，d ）

問16　胃腸に作用する薬の相互作用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　複数の胃腸鎮痛鎮痙薬が併用された場合、泌尿器系や循環器系、精神神経系などに対する副作用が現れやすくなるため、胃腸鎮痛鎮痙薬を使用している間は、他の胃腸鎮痛鎮痙薬の使用を避けることとされている。
b　複数の瀉下薬を併用すると、激しい腹痛を伴う下痢や下痢に伴う脱水症状等を生じるおそれがあり、どのような種類の瀉下成分を含有するものであっても、瀉下薬を使用している間は、他の瀉下薬の使用を避けることとされている。
c　駆虫薬の服用に際し、瀉下薬が併用されることはない。
d　抗コリン成分については、胃腸鎮痛鎮痙薬以外の医薬品（かぜ薬等）にも配合されている場合があり、抗コリン作用を有する成分を含有する医薬品どうしが併用された場合、抗コリン作用が増強され、副作用が現れやすくなる。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	正	正	正	誤
4	正	誤	正	正
5	正	正	誤	正

問17　強心薬の配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

a　ゴオウは、ウシ科のウシの胆嚢中に生じた結石を基原とする生薬で、強心作用のほか、末梢血管の拡張による血圧降下、興奮を静める等の作用があるとされる。
b　ロクジョウは、シカ科のジャコウジカの雄の麝香腺分泌物を基原とする生薬で、強心作用のほか、呼吸中枢を刺激して呼吸機能を高めたり、意識をはっきりさせる等の作用があるとされる。
c　リュウノウは、中枢神経系の刺激作用による気つけの効果を期待して用いられ、その主要な物質として、ボルネオ―ルが配合されている場合もある。
d　苓桂朮甘湯は、強心作用が期待される生薬が含まれており、通常用量においても、悪心（吐きけ）、嘔吐の副作用が現れることがある。

1（ a，b ）　2（ a，c ）　3（ a，d ）　4（ b，d ）　5（ c，d ）

問18　脂質異常症に関する以下の記述について、（　　）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

医療機関で測定する検査値として、低密度リポタンパク質（ＬＤＬ）が（　a　）mg/dL以上、高密度リポタンパク質（ＨＤＬ）が（　b　）mg/dL未満、中性脂肪が空腹時（　c　）mg/dL以上のいずれかである状態を、脂質異常症という。

	a	b	c
1	140	40	150
2	140	40	140
3	140	50	150
4	150	40	140
5	150	50	140

問19　貧血用薬（鉄製剤）に配合されるビタミン成分のうち、消化管内で鉄が吸収されやすい状態に保つことを目的として用いられるものはどれか。

1　ビタミンA
2　ビタミンB１
3　ビタミンB６
4　ビタミンB12
5　ビタミンC

問20　循環器用薬及びその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　イノシトールヘキサニコチネートは、ニコチン酸が遊離し、そのニコチン酸の働きによって末梢の血液循環を改善する作用を示すとされる。
b　ルチンは、ビタミン様物質の一種で、高血圧等における毛細血管の補強、強化の効果を期待して用いられる。
c　三黄瀉心湯（さんおうしゃしんとう）は、体力中等度以下で、顔色が悪くて疲れやすく、胃腸障害のないものの高血圧に伴う随伴症状（のぼせ、肩こり、耳鳴り、頭重）に適すとされるが、15歳未満の小児への使用は避ける必要がある。
d　小青竜湯（しょうせいりゅうとう）を鼻血に用いる場合には、漫然と長期の使用は避け、５～６回使用しても症状の改善がみられないときは、いったん使用を中止して専門家に相談がなされるなどの対応が必要である。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	誤	誤

問21　痔の薬に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

1　外用痔疾用薬は局所に適用されるものであるが、坐剤及び注入軟膏では、成分の一部が直腸粘膜から吸収されて循環血流中に入りやすく、全身的な影響を生じることがある。
2　血管拡張作用による止血効果を期待して、ナファゾリン塩酸塩等のアドレナリン作動成分が配合されていることがある。
3　痔に伴う症状の緩和を目的として、センナ（又はセンノシド）、ダイオウ、カンゾウ等の生薬成分が配合されている場合がある。
4　乙字湯は、体力中等度以上で、大便がかたく、便秘傾向のあるものの痔核（いぼ痔）、切れ痔、便秘、軽度の脱肛に適すとされる。

問22　泌尿器用薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　ウワウルシ（ツツジ科のクマコケモモの葉を基原とする生薬）は、利尿作用のほかに、経口的に摂取した後、尿中に排出される分解代謝物が抗菌作用を示し、尿路の殺菌消毒効果を期待して用いられる。
b　六味丸は、体力中等度以下で、疲れやすくて尿量減少又は多尿で、ときに手足のほてり、口渇があるものの排尿困難、残尿感、頻尿、むくみ、痒み、夜尿症、しびれに適すとされる。
c　牛車腎気丸は、体力に関わらず使用でき、排尿異常があり、ときに口が渇くものの排尿困難、排尿痛、残尿感、頻尿、むくみに適すとされる。
d　残尿感や尿量減少は一時的な体調不良等によるもののほか、膀胱炎や前立腺肥大等における自覚症状として現れることもあり、その場合、一般用医薬品によって対処することは適当でない。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	正	正	正	誤
4	正	誤	正	正
5	正	正	誤	正

問23　婦人薬に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

a　婦人薬は、月経及び月経周期に伴って起こる症状を中心として、女性に現れる特有な諸症状の緩和と、保健を主たる目的とする医薬品である。
b　桂枝茯苓丸（けいしぶくりょうがん）は、体力虚弱で、冷え症で貧血の傾向があり疲労しやすいものの月経不順、月経異常等に適すとされるが、胃腸の弱い人では胃部不快感等の副作用が現れやすい。
c　加齢とともに卵巣からの女性ホルモンの分泌が減少していき、やがて月経が停止して、妊娠可能な期間が終了することを閉経といい、閉経の前後には、更年期と呼ばれる移行的な時期があり、体内の女性ホルモンの量が大きく変動することがある。
d　当帰芍薬散（とうきしゃくやくさん）は、比較的体力があり、ときに下腹部痛等を訴えるものの月経不順、月経異常等に適すとされるが、体の虚弱な人では不向きとされる。

1（a，b）　2（a，c）　3（a，d）　4（b，c）　5（b，d）

問24　内服アレルギー薬に関する記述のうち、<u>誤っているもの</u>はどれか。

1　鼻炎用内服薬では、副交感神経を刺激して鼻粘膜の血管を収縮させることによって鼻粘膜の充血や腫れを和らげることを目的として、プソイドエフェドリン塩酸塩等のアドレナリン作動成分が配合されている場合がある。
2　蕁麻疹（じんましん）や鼻炎等のアレルギー症状に対する医薬品の使用は、基本的に対症療法であり、一般用医薬品のアレルギー用薬は、一時的な症状の緩和に用いられるものである。
3　医薬品が原因となってアレルギー症状を生じることもあり、使用中に症状が悪化・拡大したような場合には、医薬品の副作用である可能性を考慮し、その医薬品の服用を中止して、医療機関を受診するなどの対応が必要である。
4　パーキンソン病の治療のため医療機関でセレギリン塩酸塩等のモノアミン酸化酵素阻害剤が処方されて治療を受けている人が、プソイドエフェドリン塩酸塩が配合された鼻炎用内服薬を使用した場合、体内でのプソイドエフェドリンの代謝が妨げられて、副作用が現れやすくなるおそれが高い。

問25　鼻に用いる薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　鼻炎用点鼻薬は、急性鼻炎、アレルギー性鼻炎又は副鼻腔炎による諸症状のうち、鼻づまり、鼻みず（鼻汁過多）、くしゃみ、頭重の緩和を目的として、鼻腔内に適用される内用液剤である。
b　アドレナリン作動成分が配合された点鼻薬は、過度に使用されると鼻粘膜の血管が反応しなくなり、逆に血管が拡張して二次充血を招き、鼻づまりがひどくなりやすい。
c　一般用医薬品の鼻炎用点鼻薬の対応範囲は、急性又はアレルギー性の鼻炎及びそれに伴う副鼻腔炎だけでなく、蓄膿症などの慢性のものも対象となる。
d　鼻粘膜を清潔に保ち、細菌による二次感染を防止することを目的として、ベンザルコニウム塩化物、ベンゼトニウム塩化物、セチルピリジニウム塩化物のような殺菌消毒成分が配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	誤	正	誤	誤
4	正	正	正	正
5	正	誤	誤	正

問26　点眼薬における副作用及び一般的な注意に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

a　局所性の副作用として、目の充血や痒み、腫れが現れることがあるが、皮膚の発疹、発赤、痒み等の全身性の副作用が現れることはない。
b　別の人が使用している点眼薬は、容器の先端が睫毛（まつげ）に触れる等して中身が汚染されている可能性があり、共用することは避けることとされている。
c　医師の治療を受けている人では、一般用医薬品の点眼薬を使用する前に、その適否につき、治療を行っている医師又は処方薬の調剤を行った薬剤師に相談がなされるべきである。
d　点眼後は、数回まばたきをし、薬液を結膜嚢内に行き渡らせるようにする。

1（a，b）　2（a，c）　3（a，d）　4（b，c）　5（c，d）

問27　眼科用薬に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

a　アズレンスルホン酸ナトリウムは、炎症の原因となる物質の生成を抑える作用を示し、目の炎症を改善する効果を期待して用いられる。
b　眼粘膜のタンパク質と結合して皮膜を形成し、外部の刺激から保護する作用を期待して、イプシロン - アミノカプロン酸が配合されている場合がある。
c　ジフェンヒドラミン塩酸塩等の抗ヒスタミン成分配合薬と、鼻炎用点鼻薬を併用した場合には、眠気が現れることがあるため、乗物又は機械類の運転操作を避ける必要がある。
d　ホウ酸は、洗眼薬として用時水に溶解し、結膜嚢の洗浄・消毒に用いられる。

1（ a，b ）　2（ a，c ）　3（ a，d ）　4（ b，c ）　5（ c，d ）

問28　皮膚に用いる薬に関する記述のうち、正しいものはどれか。

1　殺菌消毒薬のうち、火傷（熱傷）や化膿した創傷面の消毒、口腔内の殺菌・消毒などを併せて目的とする製品については、医薬品としてのみ認められている。
2　オキシドール（過酸化水素水）は、細菌や真菌類のタンパク質を変性させることにより殺菌消毒作用を示し、患部の化膿を防ぐことを目的として用いられる。
3　クロルヘキシジン塩酸塩は、結核菌を含む一般細菌類、真菌類、ウイルスに対して殺菌消毒作用を示す。
4　エタノール（消毒用エタノール）は、皮膚刺激性が弱いため、手指・皮膚の消毒、器具類の消毒のほか、創傷面、粘膜（口唇等）や目の周りの殺菌・消毒にも使用が推奨される。

問29　皮膚の痒(かゆ)み、腫れ、痛み等に用いる薬に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

1　外皮用薬で用いられるステロイド性抗炎症成分は、広範囲に生じた皮膚症状や、慢性の湿疹(しん)・皮膚炎を対象とするものではない。
2　非ステロイド性抗炎症成分のうち、インドメタシンについては、筋肉痛や関節痛等に用いられ、これらの症状を改善するためには比較的長期間（１ヶ月以上）の使用が推奨される。
3　まれに重篤な副作用として光線過敏症が現れることがあるため、ケトプロフェンが配合された外皮用薬を使用している間及び使用後も当分の間は、紫外線に当たるのを避ける必要がある。
4　外用薬で用いられる抗ヒスタミン成分は、適用部位の組織に浸透して、肥満細胞から遊離したヒスタミンとその受容体タンパク質との結合を妨げることにより、患部局所におけるヒスタミンの働きを抑える。

問30　頭皮・毛根に作用する配合成分とその働きに関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

【配合成分】	【働き】
a　ヒノキチオール	毛根への血行を促すことによる発毛効果
b　エストラジオール安息香酸エステル	女性ホルモンによる脱毛抑制効果
c　チクセツニンジン	血行促進、抗炎症作用
d　カルプロニウム塩化物	頭皮の脂質代謝を高めて、余分な皮脂を取り除く

1（a，b）　2（a，c）　3（a，d）　4（b，c）　5（b，d）

問31　歯痛薬に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

a　歯痛は、多くの場合、歯の齲蝕（むし歯）とそれに伴う歯髄炎によって起こり、歯痛薬は、歯の齲蝕による歯痛を応急的に鎮めることを目的とする一般用医薬品である。
b　冷感刺激を与え知覚神経を麻痺させることによる鎮痛・鎮痒の効果を期待して、フェノール、歯科用フェノールカンフル、オイゲノール等の冷感刺激成分が配合されている場合もある。
c　齲蝕を生じた部分における細菌の繁殖を抑えることを目的として、アミノ安息香酸エチル、ジブカイン塩酸塩、テーカイン等の殺菌消毒成分が用いられる。
d　サンシシは、アカネ科のクチナシの果実を基原とする生薬で、抗炎症作用を期待して用いられる。

1（ a，b ）　2（ a，c ）　3（ a，d ）　4（ b，c ）　5（ b，d ）

問32　歯槽膿漏薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　歯槽膿漏薬は、歯肉炎、歯槽膿漏の諸症状の緩和を目的とする医薬品である。
b　歯周組織の炎症を和らげることを目的として、グリチルリチン酸二カリウムが配合されている場合がある。
c　歯槽膿漏薬は、患部局所に適用する外用薬であり、内服薬はない。
d　コラーゲン代謝を改善して炎症を起こした歯周組織の修復を助け、また、毛細血管を強化して炎症による腫れや出血を抑える効果を期待し、ビタミンCが配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	正	正	正	誤
4	正	誤	正	正
5	正	正	誤	正

問33　口内炎に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

1　口内炎用薬は、口内炎、舌炎の緩和を目的として口腔内局所に適用される外用薬である。
2　口内炎用薬は、口腔内に適用されるため、ステロイド性抗炎症成分が配合されている場合には、その含有量によらず長期連用を避ける必要がある。
3　口内炎や舌炎は、通常であれば１～２週間で自然寛解するが、一度に複数箇所に発生して食事に著しい支障を来すほどの状態であれば、医療機関を受診するなどの対応が必要である。
4　一般用医薬品の副作用として口内炎が現れることはない。

問34　禁煙補助剤に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

a　タバコの煙に含まれるニコチンは、肺胞の毛細血管から血液中に取り込まれると、すみやかに脳内に到達し、脳の情動を司る部位に働いて覚醒、リラックス効果などをもたらす。
b　非喫煙者では、一般にニコチンに対する耐性があるため、誤って禁煙補助剤を使用したとしても、吐きけ、めまい、腹痛などの症状が現れることはない。
c　一般用医薬品である禁煙補助剤は、喫煙を徐々に減らしながら使用することができるが、使用直後の喫煙は、血中のニコチン濃度が急激に上昇するおそれがあり、避ける必要がある。
d　禁煙補助剤によりニコチン離脱症状を軽減しながら、徐々にその使用量を減らしていくこととし、初めから無理に減らそうとしないほうが、結果的に禁煙達成につながるとされる。

1（ a，b ）　2（ a，c ）　3（ a，d ）　4（ b，c ）　5（ b，d ）

問35　滋養強壮保健薬に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

a　ビタミン等の補給を目的とするものとして医薬部外品の保健薬があるが、それらの効能・効果の範囲は、滋養強壮、虚弱体質の改善、病中・病後の栄養補給等に限定されている。
b　ビタミンＢ６は、腸管でのカルシウム吸収及び尿細管でのカルシウム再吸収を促して、骨の形成を助ける栄養素である。
c　コンドロイチン硫酸ナトリウムは、関節痛、筋肉痛等の改善を促す作用を期待してビタミンＢ１等と組み合わせて配合されている場合がある。
d　ビタミンＥは、夜間視力を維持したり、皮膚や粘膜の機能を正常に保つために重要な栄養素である。

１（ａ，ｂ）　２（ａ，ｃ）　３（ａ，ｄ）　４（ｂ，ｃ）　５（ｂ，ｄ）

問36　漢方処方製剤に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

1　現代中国で利用されている中医学に基づく薬剤は、漢方薬ではなく、中薬と呼ばれ、漢方薬とは明らかに別物である。
2　漢方薬を使用する場合、漢方独自の病態認識である「証」に基づいて用いることが、有効性及び安全性を確保するために重要である。
3　漢方処方製剤において、間質性肺炎や肝機能障害のような重篤な副作用が起きることはない。
4　漢方処方製剤は、症状の原因となる体質の改善を主眼としているものが多く、比較的長期間（１ヶ月位）継続して服用されることがある。

問37　生薬製剤に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

a　生薬は、動植物の薬用とする部分、細胞内容物、分泌物、抽出物又は鉱物などであり、薬用動植物・薬用鉱物等の名称が生薬名と混同されて用いられることがあるが、これらは生薬の素材（基原）となる動植物・鉱物等を指すものであり、明確に区別される必要がある。
b　生薬から抽出されたエキス等として配合、製剤化された製品が多いが、全形生薬、切断生薬又は粉末生薬のまま製品として販売されるものもある。
c　ブシは、セリ科の*Saposhnikovia divaricata* Schischkinの根及び根茎を基原とする生薬で、発汗、解熱、鎮痛、鎮痙(けい)等の作用を期待して用いられる。
d　ボウフウは、心筋の収縮力を高めて血液循環を改善する作用を持ち、血液循環が高まることによる利尿作用を示すほか、鎮痛作用を示すが、アスピリン等と異なり、プロスタグランジンを抑えないことから、胃腸障害等の副作用は示さない。

1（a，b）　2（a，c）　3（a，d）　4（b，c）　5（b，d）

問38　感染症及び消毒薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　食中毒は、手指や食品、調理器具等に付着した細菌やウイルスが経口的に体内に入って増殖することによってのみ発生し、寄生虫によって発生することはない。
b　殺菌・消毒は生存する微生物の数を減らすために行われる処置であり、滅菌は物質中のすべての微生物を殺滅又は除去することである。
c　クレゾール石ケン液は、結核菌を含む一般細菌類、真菌類に対して比較的広い殺菌消毒作用を示すが、大部分のウイルスに対する殺菌消毒作用はない。
d　塩素系殺菌消毒成分は、吐瀉(しゃ)物や血液等が床等にこぼれたときの殺菌消毒にも適しており、有機物の影響を受けにくいので、殺菌消毒の対象物を洗浄しなくても効果に影響はない。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	誤
3	正	正	誤	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	誤	誤

問39　殺虫剤・忌避剤に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

1　ハエ（イエバエ、センチニクバエ等）は、赤痢菌、チフス菌、コレラ菌、O―１５７大腸菌等の病原菌や皮膚疾患、赤痢アメーバ、寄生虫卵、ポリオウイルスの伝播など様々な病原体を媒介する。
2　燻蒸処理を行う場合、ゴキブリの卵は医薬品の成分が浸透しない殻で覆われており殺虫効果を示さないため、３週間位後に、もう一度燻蒸処理を行い、孵化した幼虫を駆除する必要がある。
3　ツツガムシは、ツツガムシ病リケッチアを媒介するダニの一種であり、ヒトの生活環境でなく野外に生息し、目視での確認が困難であるため、ツツガムシが生息する可能性がある場所に立ち入る際には、専ら忌避剤による対応が図られる。
4　ノミが終生を宿主に寄生して生息するのに対して、シラミはペットの寝床やよくいる場所、部屋の隅の埃の中などで幼虫が育つため、電気掃除機による吸引や殺虫剤の散布などによる駆除を行うことも重要である。

問40　一般用検査薬に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

a　薬局でのみ取り扱うことが認められており、医薬品の販売業（店舗販売業、配置販売業）では取り扱うことが認められていない。
b　一般の生活者が正しく用いて健康状態を把握し、速やかな受診につなげることで疾病を早期発見するためのものである。
c　尿糖・尿タンパク同時検査の場合、早朝尿（起床直後の尿）を検体とするが、尿糖が検出された場合には、食前の尿について改めて検査して判断する必要がある。
d　経口避妊薬や更年期障害治療薬などのホルモン剤を使用している人では、妊娠していなくても尿中にヒト絨毛性性腺刺激ホルモン（ｈＣＧ）が検出されることがある。

1（ａ，ｂ）　2（ａ，ｃ）　3（ａ，ｄ）　4（ｂ，ｃ）　5（ｂ，ｄ）

医薬品の適正使用と安全対策

問41　医薬品の適正使用情報に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　一般用医薬品の添付文書の記載は、専門的な表現でなされており、一般の生活者には理解しにくいものになっている。
b　医薬品によっては添付文書の形ではなく、医薬品医療機器等法第52条第２項の規定に基づく「用法、用量その他使用及び取扱い上の必要な注意」等の記載を、外箱等に行っている場合がある。
c　要指導医薬品は、一般の生活者が購入し、登録販売者の判断で使用するものである。
d　一般用医薬品の添付文書では、リスク区分の記載が省略されることがある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	誤	正	正
3	正	正	誤	正
4	誤	正	誤	誤
5	誤	誤	正	誤

問42　一般用医薬品（一般用検査薬を除く。）の添付文書に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

a　「効能又は効果」の項目には、一般の生活者が自ら判断できる症状、用途等が示されているほか、「適応症」として記載されている場合もある。
b　「病気の予防・症状の改善につながる事項（いわゆる「養生訓」）」の項目は、必須記載ではない。
c　「消費者相談窓口」の項目には、医薬品製造業者の窓口担当部門の名称、電話番号、受付時間を記載しなければならない。
d　薬効名は、その医薬品の薬効又は性質（例えば、主たる有効成分など）が簡潔な分かりやすい表現で示されており、販売名に薬効名が含まれている場合であっても、必ず記載されている。

１（ａ，ｂ）　２（ａ，ｃ）　３（ｂ，ｃ）　４（ｂ，ｄ）　５（ｃ，ｄ）

問43　一般用医薬品の添付文書の使用上の注意において、「次の人は使用（服用）しないこと」の項目中に、「次の診断を受けた人」として「心臓病」と記載することとされている漢方処方製剤として、正しいものはどれか。

1　大柴胡湯
2　芍薬甘草湯
3　半夏厚朴湯
4　六君子湯
5　大黄牡丹皮湯

問44　一般用医薬品の添付文書における使用上の注意の記載に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

a　イブプロフェンを含有する解熱鎮痛薬は、アスピリン喘息を誘発するおそれがあるため、「次の人は使用（服用）しないこと」の項目中に、「本剤又は他のかぜ薬、解熱鎮痛薬を使用（服用）して喘息を起こしたことがある人」と記載されている。

b　オキセサゼインを含有する医薬品は、「次の人は使用（服用）しないこと」の項目中に、「6歳未満の小児」と記載されている。

c　ポビドンヨードが配合された含嗽薬は、ヨウ素の体内摂取が増える可能性があり、甲状腺疾患の治療に影響を及ぼすおそれがあるため、「次の人は使用（服用）しないこと」の項目中に、「次の診断を受けた人」として「甲状腺疾患」と記載されている。

d　テオフィリンが配合された鎮咳去痰薬は、乳児に神経過敏を起こすことがあるため、「次の人は使用（服用）しないこと」の項目中に、「授乳中の人は本剤を服用しないか、本剤を服用する場合は授乳を避けること」と記載されている。

1（a，b）　2（a，c）　3（a，d）　4（b，d）　5（c，d）

問45　次の表は、ある乗物酔い防止薬に含まれている成分の一覧である。この乗物酔い防止薬を使用できない、又は「服用前に医師、薬剤師又は登録販売者に相談してください」とされる人に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

１錠中
ジフェンヒドラミンサリチル酸塩　　40mg
ジプロフィリン　　26mg
（添加物）
タルク、トウモロコシデンプン、乳糖、カルメロースＣａ、硬化油
酸化チタン、ステアリン酸Ｃａ、セルロース、ヒプロメロース
マクロゴール、無水ケイ酸

a　糖尿病の診断を受けた人
b　緑内障の診断を受けた人
c　甲状腺機能障害の診断を受けた人
d　てんかんの診断を受けた人

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	正	正	正
3	誤	誤	正	誤
4	正	正	正	正
5	正	正	誤	誤

問46　以下の医薬品成分のうち、一般用医薬品の使用上の注意において、「相談すること」の項目中に、「次の症状がある人」として「排尿困難」と記載することとされている成分はどれか。

1　ロペラミド塩酸塩
2　テオフィリン
3　イブプロフェン
4　エストラジオール
5　クロルフェニラミンマレイン酸塩

問 47　以下の医薬品成分のうち、一般用医薬品の使用上の注意において、「相談すること」の項目中に、「授乳中の人」と記載することとされている成分はどれか。

1　アルジオキサ
2　セトラキサート塩酸塩
3　メチルエフェドリン塩酸塩
4　スクラルファート
5　酸化マグネシウム

問48　一般用医薬品の添付文書における使用上の注意の記載に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

1　タンニン酸アルブミンは、乳製カゼインを由来としているため、同成分が配合された医薬品は、「本剤又は本剤の成分、牛乳によるアレルギー症状を起こしたことがある人」は服用しないこととされている。
2　トラネキサム酸が配合された医薬品（内服）は、生じた血栓が分解されにくくなるため、「血栓のある人（脳血栓、心筋梗塞、血栓静脈炎等）、血栓症を起こすおそれのある人」は相談することとされている。
3　インドメタシンが配合された外用鎮痛消炎薬は、喘息発作を誘発するおそれがあるため、「喘息を起こしたことがある人」は使用しないこととされている。
4　フェニレフリン塩酸塩が配合された医薬品は、肝機能障害を悪化させるおそれがあるため、「肝臓病の診断を受けた人」は相談することとされている。

問49　一般用医薬品の添付文書における使用上の注意の記載に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　デキストロメトルファン臭化水素酸塩水和物が配合された医薬品は、眠気を生じることがあるため、「服用後、乗物又は機械類の運転操作をしないこと」とされている。
b　プロメタジン塩酸塩が配合された医薬品は、外国において、乳児突然死症候群、乳児睡眠時無呼吸発作のような致命的な呼吸抑制が現れたとの報告があるため、「15歳未満の小児」は服用しないこととされている。
c　ロートエキスが配合された医薬品は、腸管粘膜への刺激が大きくなり、腸管粘膜に炎症を生じるおそれがあるため、「大量に使用（服用）しないこと」とされている。
d　麻子仁丸（ましにんがん）は、鎮静作用の増強が生じるおそれがあるため、「服用前後は飲酒しないこと」とされている。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	誤	誤	正	誤
3	正	誤	誤	誤
4	正	正	誤	誤
5	誤	正	誤	正

問50　一般用医薬品の製品表示に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

a　危険物に該当する消毒用アルコールには、消防法（昭和23年法律第186号）に基づき「火気厳禁」等の注意事項が記載されている。
b　１回服用量中0.01mLを超えるアルコールを含有する内服液剤(滋養強壮を目的とするもの)については、アルコールを含有する旨及びその分量が記載されている。
c　適切な保存条件の下で製造後３年を超えて性状及び品質が安定であることが確認されている医薬品には、使用期限の法的な表示義務はない。
d　「保管及び取扱い上の注意」の項のうち、医薬品の保管に関する事項については、購入者が製品を開封して添付文書に目を通すことが重要であるため、その容器や包装には記載されていない。

１（ａ，ｂ）　２（ａ，ｃ）　３（ｂ，ｃ）　４（ｂ，ｄ）　５（ｃ，ｄ）

問51　緊急安全性情報及び安全性速報に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　緊急安全性情報は、医薬関係者に確実に情報を伝達する必要があることから、医薬品製造販売業者によるダイレクトメールやファックスでの情報提供は認められていない。
b　緊急安全性情報は、医療用医薬品や医家向け医療機器についての情報伝達である場合が多いが、一般用医薬品にも関係する情報が発出されたことがある。
c　安全性速報は、医薬品、医療機器又は再生医療等製品について緊急かつ重大な注意喚起や使用制限に係る対策が必要な状況にある場合に作成される。
d　安全性速報は、独立行政法人医薬品医療機器総合機構の命令又は指示を受け、医薬品製造販売業者が作成する情報である。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	誤	誤	正	誤
3	正	誤	正	誤
4	正	正	誤	正
5	誤	正	誤	誤

問52　医薬品医療機器等法第68条の10第２項の規定に基づく医薬品の副作用等の報告に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

1　登録販売者は、保健衛生上の危害の発生又は拡大防止の観点から、報告の必要性を認めた場合においては、30日以内に都道府県知事に報告しなければならない。
2　複数の専門家が医薬品の販売等に携わっている場合であっても、当該薬局又は医薬品の販売業において販売等された医薬品の副作用等によると疑われる健康被害の情報に直接接した専門家１名から報告書が提出されれば十分である。
3　医薬品との因果関係が必ずしも明確でない場合であっても報告の対象となり得る。
4　報告者に対しては、安全性情報受領確認書が交付される。

問53　医薬品の適正使用情報と購入者に対する情報提供に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　令和３年８月１日から、一般用医薬品への紙の添付文書の同梱を廃止し、注意事項等情報は電子的な方法により提供されている。
b　添付文書に「使用上の注意」として記載される内容は、その医薬品に配合されている成分等に由来することが多く、配合成分等の記載からある程度読み取ることも可能である。
c　登録販売者は、購入者等に対して科学的な根拠に基づいたアドバイスは避け、過去の経験をもとに説明を行うべきである。
d　添付文書や外箱表示は、それらの記載内容が改訂された場合、実際にそれが反映された製品が流通し、購入者等の目に触れるようになるまでには一定の期間を要する。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	正	正	正	誤
4	正	誤	誤	正
5	正	正	誤	誤

問54　医薬品副作用被害救済制度に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

a　医薬品を適正に使用したにもかかわらず発生した副作用による被害者の迅速な救済を図るため、製薬企業の社会的責任に基づく公的制度として1980年５月より運営が開始された。
b　健康被害を受けた本人（又は家族）の給付請求を受けて、その健康被害が医薬品の副作用によるものかどうかなど、医学的薬学的判断を要する事項について薬事審議会の諮問・答申を経て、独立行政法人医薬品医療機器総合機構が判定した結果に基づいて、各種給付が行われる。
c　救済給付業務に必要な費用のうち、給付費については、その２分の１相当額は国庫補助により賄われている。
d　医薬品を適正に使用して生じた健康被害であっても、特に医療機関での治療を要さずに寛解したような軽度のものについては給付対象に含まれない。

１（ａ，ｂ）　２（ａ，ｃ）　３（ａ，ｄ）　４（ｂ，ｃ）　５（ｃ，ｄ）

問55　医薬品副作用被害救済制度における救済給付の種類に関する記述のうち、正しいものはどれか。

1　医療費は、医薬品の副作用による疾病の治療に要した費用を定額補償するものである。
2　医療手当は、医薬品の副作用による疾病の治療に伴う医療費以外の費用の負担に着目して給付されるものであり、請求の期限は、請求に係る医療が行われた日の属する月の翌月の初日から５年以内である。
3　障害児養育年金は、医薬品の副作用により一定程度の障害の状態にある20歳未満の人を養育する人に対して給付されるものである。
4　遺族年金は、生計維持者が医薬品の副作用により死亡した場合に、その遺族の生活の立て直し等を目的として定額給付されるものであり、最高５年間を限度とする。

問56　医薬品副作用被害救済制度の救済給付の支給対象範囲に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　要指導医薬品又は一般用医薬品のうち、一般用検査薬は救済制度の対象とならない。
b　要指導医薬品又は一般用医薬品のうち、殺虫剤・殺鼠剤（人体に直接使用するものを除く。）は救済制度の対象とならない。
c　製品不良など、製薬企業に損害賠償責任がある場合は救済制度の対象とならない。
d　個人輸入により入手された医薬品は救済制度の対象とならない。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	誤	誤	誤
4	正	正	正	正
5	誤	正	誤	正

問57　医薬品の安全対策に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

a　解熱鎮痛成分としてアスピリン、スルピリンが配合されたアンプル入りかぜ薬の使用による重篤な副作用（ショック）で、1959年から1965年までの間に計38名の死亡例が発生した。
b　2003年５月までに、一般用かぜ薬の使用によると疑われる間質性肺炎の発生事例が、計26例報告されたことを踏まえ、厚生労働省では、同年６月、一般用かぜ薬全般につき安全性速報の発出を指示した。
c　アンプル剤以外の一般用かぜ薬について、1970年に承認基準が制定され、成分・分量、効能・効果等が見直された。
d　アンプル剤は他の剤形（錠剤、散剤等）に比べて吸収が速く、血中濃度が急速に高値に達するため、通常用量でも副作用を生じやすいことが確認されたことから、1965年、厚生省（当時）より関係製薬企業に対し、アンプル入りかぜ薬製品の回収が要請された。

１（ａ，ｂ）　２（ａ，ｃ）　３（ｂ，ｃ）　４（ｂ，ｄ）　５（ｃ，ｄ）

問58　医薬品の安全対策に関する記述について、（　　）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。なお、３か所の（　ａ　）内及び２か所の（　ｂ　）内はそれぞれ同じ字句が入る。

小柴胡湯（しょうさいことう）による（　ａ　）については、1991年４月以降、使用上の注意に記載されていたが、その後、小柴胡湯（しょうさいことう）と（　ｂ　）の併用例による（　ａ　）が報告されたことから、1994年１月、（　ｂ　）との併用を禁忌とする旨の使用上の注意の改訂がなされた。
しかし、それ以降も慢性肝炎患者が小柴胡湯（しょうさいことう）を使用して（　ａ　）を発症し、死亡を含む重篤な転帰に至った例もあったことから、1996年３月、厚生省（当時）より関係製薬企業に対して（　ｃ　）の配布が指示された。

	a	b	c
1	急性肝炎	フィブリノゲン製剤	安全性速報
2	急性肝炎	インターフェロン製剤	緊急安全性情報
3	間質性肺炎	インターフェロン製剤	安全性速報
4	間質性肺炎	インターフェロン製剤	緊急安全性情報
5	間質性肺炎	フィブリノゲン製剤	安全性速報

問59　塩酸フェニルプロパノールアミン（ＰＰＡ）含有医薬品の安全対策等に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

1　ＰＰＡは、鼻充血や結膜充血を除去し、鼻づまり等の症状の緩和を目的として、鼻炎用内服薬、鎮咳去痰薬、かぜ薬等に配合されていた。
2　2000年５月、米国において、女性が糖質吸収抑制剤（日本での鼻炎用内服薬等における配合量よりも高用量）として使用した場合に、出血性脳卒中の発生リスクとの関連性が高いとの報告がなされた。
3　2003年８月までに、日本でもＰＰＡが配合された一般用医薬品による副作用症例が複数報告され、それらの多くが用法・用量の範囲を超えた使用又は禁忌とされている高血圧症患者の使用によるものであった。
4　日本でも副作用症例が報告された後、厚生労働省から関係製薬企業等に対して、使用上の注意の改訂、情報提供の徹底等を行うとともに、代替成分としてプソイドエフェドリン塩酸塩（ＰＳＥ）等への速やかな切替えにつき指示がなされた。

問60　医薬品の適正使用のための啓発活動等に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　薬物乱用や薬物依存は、違法薬物（麻薬、覚醒剤等）によるものばかりでなく、一般用医薬品によっても生じ得る。
b　一般用医薬品の乱用をきっかけとして、違法な薬物の乱用につながることもあり、その場合、乱用者自身の健康を害するだけでなく、社会的な弊害を生じるおそれが大きい。
c　青少年では、薬物乱用の危険性に関する認識や理解が必ずしも十分ではなく、好奇心から身近に入手できる薬物を興味本位で乱用することがあるため、小中学生のうちからの啓発は望ましくない。
d　薬物乱用防止を一層推進するため、毎年10月17日～23日の１週間、国、自治体、関係団体等により、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動が実施されている。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	誤	正
3	正	正	正	誤
4	正	誤	正	正
5	誤	誤	正	誤